

# みつくら

令和 4年 3月15日 第358号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 豊作と占ったろし滝

令和4年2月11日のたろし滝測定会は、約100名が参加して行われ、上田東一花巻市長が「今年のたろし滝は、5m45cm」と宣言された。

測定会はコロナ禍のため昨年と同じく来賓を招かず規模を縮小して行われたが、上田花巻市長や、佐々木県議が来会された。測定会の開催にあたり、交通誘導には安協大瀬川分会が約70台の駐車を誘導、音響は板垣公さんが担当し、ボランティア団体が来会者案内やお振る舞いの代わりに甘酒の缶とひつつみ入りの袋の配付に協力した。

菅原洋二新副会長の「開会」宣言に続き、参加者全員で「豊作祈願」を行った。続いて、熊谷幸夫新会長が「この寒い中、多くの方々に参加頂き測定会を行うことができありがとうございます。今年のたろし滝は、ご覧のように太く、綺麗な色をしています」と挨拶した。いよいよ測定の運びとなり、役員5名が巻き尺を回して市長から太さを宣言して頂き、測定結果の表示も行った。

熊谷会長川柳「仰ぎ見る コロナもたまげる 大氷柱」がよまれ、上田市長からは「コロナでも 光をくれる たろし滝」、また、達増知事も川柳を寄せられ「コロナ止め

豊作呼び込む 二刀流」が披露された。最後に佐々木県議は、江戸後期の狂歌師田原坊の句をもじって「たろし滝 ああたろし滝 たろし滝」とよんだ。「松島や ああ松島や 松島や」は松尾芭蕉の作と思い込んでいたが、近年田原坊の作と認定されている。今年のたろし滝は、48回の中で一番綺麗で青く透き通った色をしており、今年は何か御利益があるかもしれないと期待させた。

当日の夜のテレビでは、殆どの局が測定会の様子をニュースで放映したが、特にNHKでは翌日に放映時間を長くして特集をしていた。令和4年2月の花巻農協カレンダーには、令和3年のたろし滝測定会が掲載されたし、直近の「広報はなまき」3月1日号にも今回のたろし滝が表紙を飾っている。また、YouTubeでたろし滝測定会を検索すると「おおせがわスタイル」の名前で9区の藤原誠さんが動画

をアップしているの、是非チャンネル登録を。

## 対象者34名が厄払いと年祝い

2月13日に大瀬川年祝実行委員会（熊谷信人委員長）は「令和4年大瀬川地区合同年祝厄祓いの儀（対象者34名）」を山祇神社で行った。祈祷に参加した対象者は8名で、直町宮司による祭祀のもと玉串を奉天した。祈祷の終わりに宮司から「皆様のこれからの安寧を大神に御奉仕し申し上げます。10年ごとの節目に新たな10年に向かい気持ちを引き締め、特に健康には留意して過ごして頂きたい」と言葉があった。

その後青空の下、社殿前で記念撮影をし、みつくらお知らせ版に写真を掲載したが、名前の表記をする。

左奥から、責任役員：畠山勝栄さん（六釜）、菅原純一さん（桃ノ木）、板垣公さん（山羊屋）、菅原和子さん（堰合）、熊谷敏江さん（古場）、委員長：熊谷信人さん（向田）、左前から、板垣淑子さん（谷地）、菅原一禎さん（大工戸）、直町宮司、菅原清昇さん（渡里）、熊谷幸子さん（橋見カマド）。

## たかいさわ女子会が座敷箒づくり

去る1月23日に7区自治公民館で、たかいさわ女子会（菅原みさ子会長）の7人が座敷箒づくりをした。講師は熊谷レイ子さんで、各自が栽培した箒草をそれぞれ持ち寄り作ったもの。当日は、午後の半日で箒を仕上げる予定であったが時間が足りず、残りは2月18日に講師宅の車庫で仕上げる事が出来たという。参加した方は、菅原みさ子さん、板垣福子さん、菅原照子さん、菅原ミエ子さん、菅原茂子さん、畠山久子さん、菅原節子さん。菅原みさ子さんは「昔は、箒の柄が短かったが、今回は長い柄にしたのでしなやかさが増し、あまり腰をかがめる事もないので使いやすかった」と話していた。

たかいさわ女子会は、令和3年2月12日に設立した7区の手芸同好会で、設立のきっかけは板垣福子さんからエコクラブを使った籠づくりを教えられたのが始まり。他に大瀬川出身で箒づくりの先生は似内陽子（中谷地家）さんがいて、平成21年1月に大瀬川振興センターで17人に箒づくりを教えている。

## 7区でマスクを配布

7区自治公民館（畠山勝則館長）では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い花巻市の指導の下感染防止に努めながらも、公民館の諸行事等を開催することができず、7区自治公民館の重要事業である三世代交流事業（焼肉交流会、みずき団子、新年会）に代え、区民の健康維持を願って2月中旬に「不織布マスク」を各戸に配布した。

## お詫び

みつくら2月号記載の岩手県消防防協会連絡協議会花巻地区支部長表彰の勤続章で、菅原喜孝（2部）は 菅原善孝（2部）さんの間違いでした。訂正してお詫び致します。

## 訃報

○船台家の安部スチエさんは、2月7日に96歳で亡くなりました。安部さんは古場電家のお生まれで、戦前に松尾鉦山で働いていた時に、大東町出身の安部力男さんと結婚されました。松尾鉦山は、一時、4千人以上の従業員を抱え東洋一の硫黄産出鉦山でしたが、昭和36年からは日本でもガソリンなどを精製するときに重油から硫黄回収装置ができたことで、縮小化となり、安部さん一家も昭和39年に松尾鉦山から大瀬川に引き揚げ、それから4年後には松尾鉦山も閉山になりました。大瀬川に戻られてからは葉煙草栽培や米作を行い、冬場にはご主人が伊藤製パンや酒屋働きで留守の間、懸命に働かれながらもサービスタ店の団体旅行などにも数多く参加され、人との触れ合いを楽しまれました安部さんに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○西栄ノ上家の菅原百合子さんは、2月24日に83歳で亡くなりました。12月16日の「元気でまっせ体操」には、元気でお見えでしたが残念でなりません。菅原さんは五郎電家のお生まれで、姉には上金矢家の板垣サワさんがおられます。菅原さんは、結婚して3年後に石鳥谷メリヤスが操業当初から勤務された方でした。石鳥谷メリヤスが閉鎖した後、ジャパンエンバに勤務していましたが、経営見直しで従業員の削減に遭い、その後は米作とリンドウ栽培をしていました。平成11年に葛丸富沢農産組合が運営していた「うめえなつす」には、主要な出店者として活躍されたかたわらに、菅原典子さんと二人で冬期間は白石食品盛岡工場に勤務され、それがきっかけでお団子や、お餅、きりせんしょなどを作るようになり、公民館の集まりでお披露目もしていました。菅原かよ子さんは「お団子ばかりでなく、大根の漬け物などはなかなか真似が出来ないほど美味しいものでした」と悔やんでいました。石鳥谷町婦人消防協力隊第二分団第二部長など、地区にも貢献されました菅原さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 事務室

毎年、年祝いの話を聞くと思い出すことがある。それは平成5年4月18日、この日は西風が非常に強くて、年祝いの準備の為に山祇神社で廊下を開けて掃除をしていたが、何度掃除をしてもすぐに杉の葉や実が落ちてきた。祈祷後の祝宴会場を大瀬川改善センターの和室に移動して行っている最中の12時50分、有線電話から突然、「花巻空港で飛行機が着陸に失敗して炎上中」と放送があり、外からはサイレンの音もした。この飛行機は日本エアシステムが運航し、乗員5名と乗客72名が搭乗しており、瞬間風速22mを超える西側からの強風で叩（あお）られて滑走路の北側端で止まり炎上する事故だった。幸い全員が脱出して怪我をした人が居たが死者はなかった。翌日現地を見ると黒焦げで消火剤の白い泡が吹かれた飛行機があった。